

平成27年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名: 畜産安全課
 担当名: 畜産振興担当
 内線: 4194

(単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B5	豚凍結人工授精技術を活用した埼玉養豚競争力アップ事業			一般会計	農林水産業費	畜産業費	畜産振興費	畜産経営改善対策費	
事業期間	平成27年度～	根拠法令	養豚振興法、家畜改良増殖法			戦略項目	08 埼玉農業の競争力強化		
						分野施策	030201 収益力ある農業の確立		
<p>1 事業の概要 農業技術研究センターが開発した凍結精液人工授精技術を養豚農家に普及することで、生産性の向上を図る。 (1) 凍結精液量産のための機器整備事業 16,630千円 (2) 凍結人工授精技術実用化・普及事業 5,234千円</p>				<p>5 事業説明 (1) 事業内容 TPPの影響により想定される豚価下落に備え、養豚経営における一層のコスト削減・生産性向上が求められる。しかし、自然交配や液状精液による人工授精は、夏季の暑熱ストレスによる受胎率低下や種雄豚の多頭飼育が生産性向上や規模拡大の妨げとなっている。 そこで、農業技術研究センターが開発した凍結精液人工授精技術を養豚農家に普及することにより、生産性の向上を図る。 また、農業技術研究センターに優良種豚を導入し、優良種豚凍結精液を活用した県産ブランドを構築する。 ア 凍結精液量産のための機器整備事業 16,630千円 イ 凍結精液人工授精技術実用化・普及事業 5,234千円 (2) 事業計画 平成28年度 凍結精液量産のための機器整備 平成28年度～ 凍結精液人工授精技術の実用化及び農家への普及・定着 平成31年度 優良種豚導入 (3) 事業効果 凍結精液人工授精技術を活用した繁殖コントロールにより、夏季の受胎率向上による出荷頭数増加、種雄豚削減による母豚増頭、安全な凍結精液の供給による出荷頭数の増加と安定した出荷が可能となり、1戸当たりの平均所得向上が期待される。 (4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 県養豚協会・彩の国黒豚倶楽部等と連携して、新技術の普及・指導を推進する。 (5) 補正予算の概要 国の補正予算に対応した事業のため。</p>					
<p>2 事業主体及び負担区分 県(国10/10)</p>									
<p>3 地方財政措置の状況 なし</p>									
<p>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500円千円×1人=9,500千円</p>									
予算額		財源内訳						一般財源	補正後の 予算額
決定額	21,864	国庫支出金	21,864					21,864	
現計額									